

# 公立高入試 1万5400人

県内の公立高校で6日、一般入試が始まり、全日制と定時制の計82校で約1万5400人が学力試験に臨んだ。

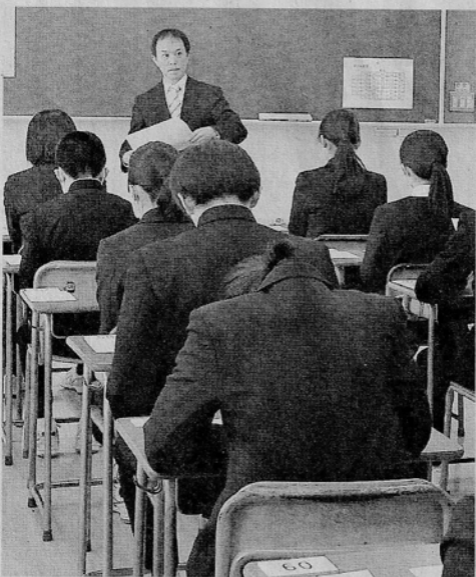
県立新潟高校（新潟市中央区）では、484人が志望。会場では、緊張した受

験生がテスト用紙の配布を待っていた。

この日は、県立巻総合高校（同市西蒲区）と県立小出高校（魚沼市）の英語の試験中、音声途切れるなどのトラブルがあった。両校は、受験生全員につい

て、巻総合高校では聞き取り問題全問（32点分）、小出高校ではトラブルがあった問題1問（3点分）を正解とした。

7日は、ほとんどの高校で学校独自検査が行われる。合格発表は14日。



試験開始を待つ受験生（6日、新潟市中央区の県立新潟高校で）

# 出題ポイント

6日の公立高校一般入試に出された問題について、学習塾「能開センター」県本部の講師陣に解説してもらった。

## 国語

### 漢字を得点源に

大問構成は4題で、5年連続の傾向。内容は言語知識、古文読解、現代文読解に分けられる。言語知識の中でも、漢字の読み書きは平易な出題が多く、配点が24点分あることを考慮しても、確実に得点源にしておきたい。読解問題でも、選択肢や書き抜き問題は、古文・現代文を問わず、取り組みやすい問題だった。

古文読解では、登場人物の人物像や心情は問われず、人物の相互関係と場面中におけるできごとを読み取るのが主眼となっている。

今年度の記述問題の合計字数は240字で、古文から1題、現代文から2題となり、昨年度より1題少ない出題。記述式の小問が1題減少した分、1問にかける時間を長く取れることになる。配点は計34点分あり、昨年度と比較すると6点下がっている。古文読解中では、配点が6点の記述問題に対して、制限字数は15字以内と、文章に即した適切な表現が求められる。

記述式問題で正解するためには、設問の意図するところを正確に理解し、的確に文章をたどり、表現することが重要となっている。

(近藤一紀)

## 数学

### 難所は小問集合

大問構成は例年通り6題で、出題形式に大きな変更はない。「1」「2」の小問集合問題が難しくなった一方、「3」以降の問題は昨年より易しくなった。

「1」「2」の小問集合問題では、「1」に計算処理の時間がかかる問題があり、「2」は全体の設問が複雑になったため、比較的時間がかかった受験生が多いと予想される。

「3」は合同の証明問題。証明するための等しい角度を説明するのが難しい。

「4」は関数と相似な図形の複合問題。相似な図形に気づき、対応する辺の長さを求めたり、文字で表したりする練習をしておかないと、解き進めることが困難だった。

「5」は規則性の問題。複雑な問題を理解しやすいように写真も用意してあった。文字の位置によって規則が変化するため、場合に分けて式を立てる必要があるが、規則性の問題として解きやすくなっていた。

「6」は空間図形の問題。空間図形が苦手の受験生は多いが、例年よりかなり解きやすくなっており、正答率は少し上がると思われる。

(五十嵐俊)

## 英語

### 日本語記述カギ

大問構成は例年通り4問。問題文自体は読みやすくなったが、日本語記述問題をいかに正確に解答できるかで差がつく。

「1」は、昨年に比べれば放送内容の英文は易化した。が、「1」の4や「3」の1など、放送文と異なった言いまわしの質問があり、聞き取った情報を質問に合わせ、考え直す必要があった。

「2」は、昨年と同じ形式だが「5」の日本語記述が難問。解答となる箇所が複数の文にまたがっていることや、そこに含まれる代名詞の指示内容を、それぞれ明らかにして記述する必要があることなど、解答作業が複雑化した。

「3」は、設問に対し自分の意見と理由を書くという類出の形式だが、友人に交通手段を提案するという会話の場面を想定した出題は初めて。

「4」は、スピーチ形式をとり、教科書的な内容。日本語記述が難しくなった。

日頃の学習でインプットした単語・文法知識をいかに正確にアウトプットできるか。そこが問われ続けている。

(加藤久美子)

## 社会

### 語句問題が減少

大問は昨年と同じ6問だが、小問は2問減り、38問だった。大きな変更点としては、昨年は多かった語句問題が8問、記号問題も6問減少したこと。記述問題は昨年より1問増えて6問で、作図関係の問題は今年は出題されなかった。

「1」「2」の地理は、各地の地形と産業に関する幅広い内容。各国の産業に関する表の問題では、ベトナムの主要輸出品目などの知識が必要だった。

「3」「4」の歴史は、大きな変化はなかった。太閤検地による公家や神社への影響に関する記述は、教科書を細かく読んでいなければ解答が困難だったと思われる。難易度は高くなかったが、「並べ替え問題」が2問に増えていた。

「5」「6」の公民では、「公正」という語句についての設問が特徴的だった。直接請求権に関する問題は署名数の計算や請求先の知識も必要で、難易度はやや高かった。

昨年同様、地理・歴史・公民とも語句問題が減少したこと以外に大きな変化はなく、全体の難易度は昨年並みだった。

(中島厚志)

## 理科

### 本質的理解問う

昨年とは異なり、従来の物理・化学・地学・生物の4分野から2題ずつ出題される形式。全体的に過去の入試と同等の難易度だが、各分野で本質的な理解を問う問題も出題されている。

「1」は与えられた表をもとに大気中の水蒸気と湿度を求める問題。「2」は植物の呼吸と光合成に関する対照実験の結果を正確に読み取ることが必要だった。

「3」は電流のはたらきに関する計算問題。毎年出題されるので、過去の問題などで練習が可能だ。

「4」は塩酸と石灰石の反応に関する問題。「3」と同様、よく出題されている。「5」は、ヒトの消化と吸収に関する基本的知識を問われた。「6」は、金属とイオンの関係、電圧が生じるしくみについて正しく理解しておきたい。

「7」は、地球の自転が関係する天体の動きと、公転が関係する天体の動き、火星が月のように満ち欠けをするかどうかを選択させる問題だった。

「8」は、質量変化と記録タイマーの紙テープの打点の間隔の変化について、正しく読み取ることが求められた。

(大山健輔)

# 75校で学校独自検査

## 公立高入試 14日に合格発表

公立高校の一般入試は7日、学校独自検査が正徳館高を除く全日制75校で実施され、2日間の日程を終えた。合格発表は14日。

独自検査では、筆答検査や面接、課題作文などが行

### 筆答検査A・B出題ポイント

7日に行われた学校独自検査のうち、筆答検査A・Bのポイントを、学習塾「開センター」県本部の講師陣に解説してもらった。

#### A

#### 数列 気付けるか

〔1〕の出題数は例年と同じ3問。昨年同様、説明のみの問題はないが、(2)と(3)は解答とその理由をそれぞれ答える必要がある。途中過程を記述することが難易度を高くしている。

例に1番目・2番目・3番

われた。筆答検査は英文や数理的な課題から論理的な思考力などをみる「A」が18校、日本語の長文の読解力や自分の考えを適切に表現する力をみる「B」が17校で、それぞれ実施された。

目があり、(1)から4番目・5番目・6番目を書くこと

で、XとYの二つの文字を使ったフィボナッチ数列(前二つの和に等しくなる数列)であることに気付くことがポイントとなる。フィボナッチ数列を知っていた受験生は有利になった

が、(2)(3)の条件の場合にも利用できることがわかれば、解答だけでも導けた受験生もいただろう。

(佐藤哲郎)

#### 要約力問われる

〔2〕は例年通り、英語

の長文読解形式の問題。語数が昨年度より100語程度減少した。グラフの読み取りは含まれているものの、1日目の学力検査同様、スピーチ形式をとった教科書的な内容だった。筆答検査Aの導入校増加に配慮した内容だったと考えられる。

設問数は3題。(1)のグラフの読み取りは、関係代名詞を用いた長めの英文の形を、正確に把握する力が試された。(2)の日本語記述問題は、字数指定が昨年度の「50字以内」から「100字以内」に増加。解答とすべき範囲は絞り込みやすいが、100字以内にとめる要約力が必要だった。

全体的にやや易しくなった問題となったが、「情報の収集・整理・発信」の力がバランスよく試されたので、生徒の学力を測りやすいも

#### B

#### 明確な文章構成

3400文字程度の文章を読み、三つの設問に答える問題。設問数と記述する文字数に変更はなかった。

問題は、「創造的な言語活動」をテーマに論じている内容で、「身体を通じた言語の獲得」「言語と身体感覚の同期」と、文章構成が明確である。具体的な例示、比喩表現が多い文章ではあるものの、内容がつかみにくく、問題解答を作るための手がかりも見つけにくい。問題の難易度は、昨年よりも難しくなった。

(1)と(2)は指定されている語句を、本文内容を参考にしながらまとめる問題。(3)は、一昨年と同じように身近な例を挙げ、意見を150字以内で述べる問題。本文中の内容を的確にとらえ、比喩内容を具体的に落とし込む表現力と、文章をまとめる力が求められている。

(岩川元)

のであったと考えられる。

(笠原尚三)